

学校だより 1月号

令和5年1月10日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045(811)6710 後期課程 ☎045(811)6030

「飛躍」

校長 野口 弘之

皆様、新年明けましておめでとうございます。

保護者、地域の皆様には、清々しい新年をお迎えのことと拝察いたします。本年も、緑園学園をどうぞよろしくお願いいたします。

三が日は穏やかな天気に恵まれ、2023年、令和5年卯年が始まりました。今年は、癸卯(みずのと)の年ですが、「癸」は十干の最後であり次の新しい巡りへと移り行く意味があるそうです。また、「卯」は「茂」と同義で草木が生える意味があることから、癸卯の年は、一説によると、厳しい冬が去り、春の兆しが訪れ、成長や飛躍へと向かう年となるということです。

さて、「卯」は十二支で動物のウサギを表します。ウサギは、視力が弱く、警戒心が強いと言われますが、長い耳による秀でた聴力を持ち、食物を食べる時は嗅覚を駆使し、逃げる時には跳躍力を発揮します。古来、犬や牛、馬などのように目立つ存在ではありませんが、人間と近い動物であったようです。子どもの頃に誰もが慣れ親しんだ「うさぎとかめ」は、古代ギリシャの古典である『イソップ寓話』を原点とし、日本では、安土桃山時代の『伊曾保物語』を経て、明治時代には、国語の教科書に「油断大敵」というタイトルで掲載されました。また、アジア各地では、「月」の影の模様にウサギをイメージすることが共通しているようです。

ウサギの大きな特徴は、何と言っても、その大きな耳であり、飛驒の「高山陣屋」のモチーフとしても使われているように、人の話をよく聴くことの大切さを思い浮かべることができます。また、その跳躍力から、大きく飛躍するイメージがあります。本年、2年目を迎える緑園学園は、保護者や地域の皆様のお声を大切に、飛躍の年として参りたいと思います。

ところで、冬休みに入る前の全校放送集会では、「一年の計は元旦にあり」という言葉を児童生徒の皆さんに紹介しました。新しい年の初めに、その年の目標や計画を立ててみましょうとお話ししました。一人ひとりが、どのような目標や計画を考えたか、とても楽しみです。本年も我々教職員は、スクールモットーの下、学校教育目標の実現を目指して、様々に工夫した教育活動に取り組んでいきますが、子どもたち一人ひとりも自分自身の立てた「めあて」に向かって努力し、大きく飛躍して欲しいと思っています。

緑園学園は開校2年目を迎えるにあたり、「one team 緑園」を合言葉に、これまでの教育活動を振り返り、さらに飛躍できるよう、教職員一丸となって子どもたちの育成に励んでまいります。保護者、地域の皆様には、引き続き、ご支援、ご協力のほど宜しくお願いいたします。